

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣

医

の

カ

ル

テ



32



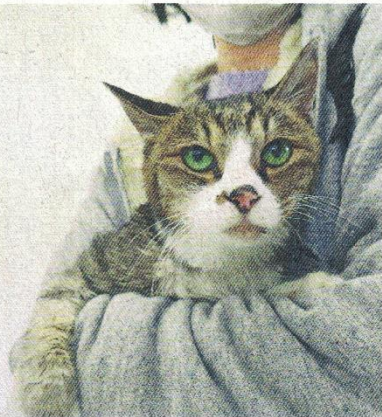
佐渡 啓樹

(舟橋村)

エル動物病院長

今回は慢性腎臓病を取り上げます。慢性腎臓病とは腎臓の異常が数カ月にわたり持続している状態のことで、腎臓機能が低下している場合は腎不全と呼ばれます。腎臓は老廃物を排せつするほかに、体の水分量とミネラルを調節して赤血球を増やすホルモンを分泌し、血液の濃さと量を調整する機能があります。腎不全になると脱水したりむくんだり、あるいは貧血（腎性貧血）になったりします。また脱水が続くと便秘、高血圧、心機能の低下といった症状が表れ、老廃物がたまると吐き気、食欲不振、ミネラルの異常で筋肉が萎縮したり骨がもろくなったりもします。

犬と猫の慢性腎臓病



4年前に高血圧と慢性腎臓病後期で治療を始めた猫（20歳）。今は心臓や肝臓にも問題があるものの、体調は安定し体重も増えた

早期発見・治療が重要

腎臓は再生しない臓器で、壊れた部分は元に戻せません。早期発見、早期治療が重要です。しかし初期には症状が出ず、検査で見つける必要があります。血液クレアチニンの測定が腎臓の検査として一般的ですが、体格で値が大きく変わる上、明確に異常値となる頃には腎臓機能の7〜8割を失っています。早期発見に

は向かず、尿検査の方が有用です。犬の慢性腎臓病は若年齢からタンプク尿が何年も持続して腎不全になるタイプが多く、早期発見には尿タンパククレアチニン比の測定が大切です。一方で、猫は中高齢になってから尿の濃縮能力が低下していくタイプが多く、尿比重の測定が早期発見に役立ちます。他にも血液中のSDMAという物

果があります。便秘にさせないことも大切です。また補液療法は非常に重要です。特に猫の場合は喉の渇きに対する感覚が鈍いため脱水しやすく、定期的に皮下点滴して脱水と老廃物の蓄積を防ぎます。血液のカリウム濃度も生活の質に大きく影響するので、一定に保つよう点滴の量や内容を調整します。

質を測定することで早期発見できる可能性があります。治療は機能が残っている部分を保護して進行を抑えつつ、症状を最小限とするよう体のバランスを整え、生活の質を維持することが目標です。腎臓に負担をかけない食事療法や必須脂肪酸の投与、腸内環境を良好に保ち、毒素成分を増やさないようにするプロバイオティクス療法も効

腎性貧血になると、腎臓病の進行が早まり貧血自体が命にも関わするため、定期的な造血ホルモンを注射して貧血が重度にならないように管理する必要があります。そのほか高血圧には降圧剤、吐き気がある場合は制酸薬や制吐剤を使い、苦痛なく普通の生活が送れるようにさまざまな手を打ちます。今は慢性腎臓病になっても早期に治療を始めれば、長寿となることも珍しくありません。